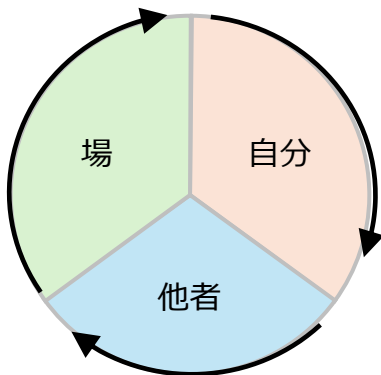
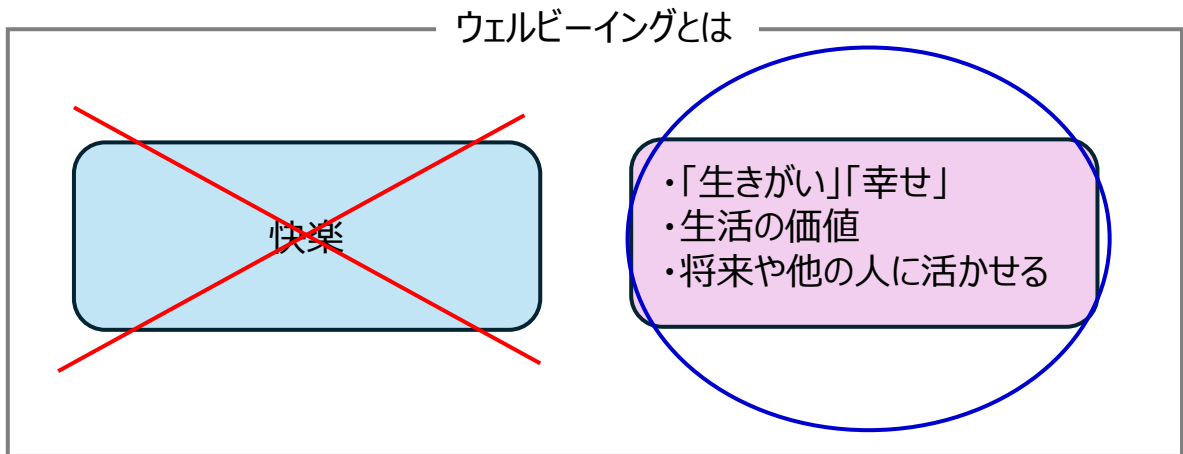


特別第1 「全国のPTAの縁を活かし力強く進める教育環境改善への提言」 太田 敬介氏 日P会長
～PTAの真の役割とは ウェルビーイングな社会教育の促進～ 内田 由紀子氏 京都大学

- ・PTAの「大人の幸せ」とは
- ・大人が我慢するのではなく、子どもたちも自分たちも幸せでありたい

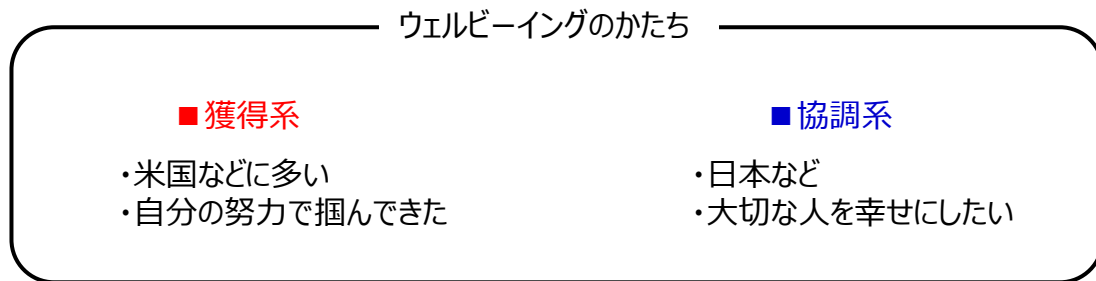
・ウェルビーイングとは直訳はできないが、近いもの言うならば「幸せ」



・個人のウェルビーイング→自分の学校のウェルビーイングを！

- ・日本人は自分の幸せを外に出して人に伝えるという事が少ない
- ・多様なウェルビーイング 良い場づくり 「こうじゃなきゃ」ではない
- ・個の幸せが他者の幸せを生み、場が幸せになっていく
- ・先生が自分が楽しく仕事をしていればその様子が保護者に伝わってゆく
先生がヘトヘトだとそれは子どもにも伝わる

特別第1 「全国のPTAの縁を活かし力強く進める教育環境改善への提言」 太田 敬介氏 日P会長
～PTAの真の役割とは ウェルビーイングな社会教育の促進～ 内田 由紀子氏 京都大学



【日本人の課題】

- ・協調意識
- ・ほかの人より表出することへの不安
- ・ミスをすることの不安



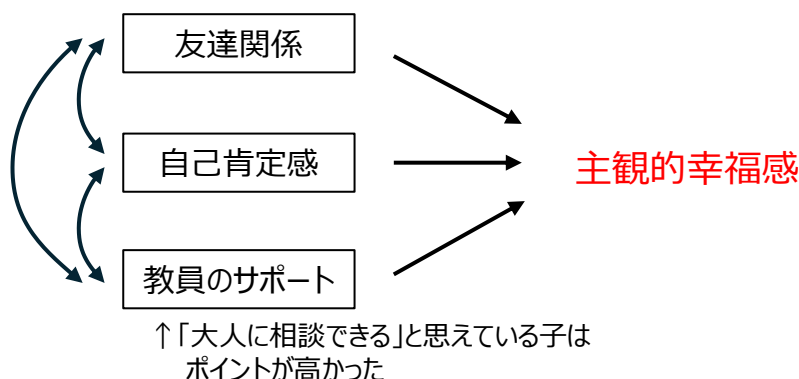
場づくり / 信頼関係の重要性

「ウェルビーイングはどのように測定するのか？」

→今のところまだ測定する方法がない



学力状況調査の項目にウェルビーイングの項目が3つ入り、ある程度分析できるようになった



※よく学力に問題があって学校について行けず、それが原因で不登校に繋がるのではないかと
と言われるが、**ウェルビーイングについて成績は関係が無かった**

これからの学校のウェルビーイング

- ◇多様性、開放性など個人を尊重
- ◇他者や社会のためになる
- ◇日本的な協調性の良さを活かす
- ◇場のウェルビーイングは共有・信頼
- ◇開かれた学校経営
- ◇ウェルビーイングな学校づくりに参画、循環する

基調講演「誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて」
～すべての子どもたちに「生まれてきてくれてありがとう」を届けよう！～

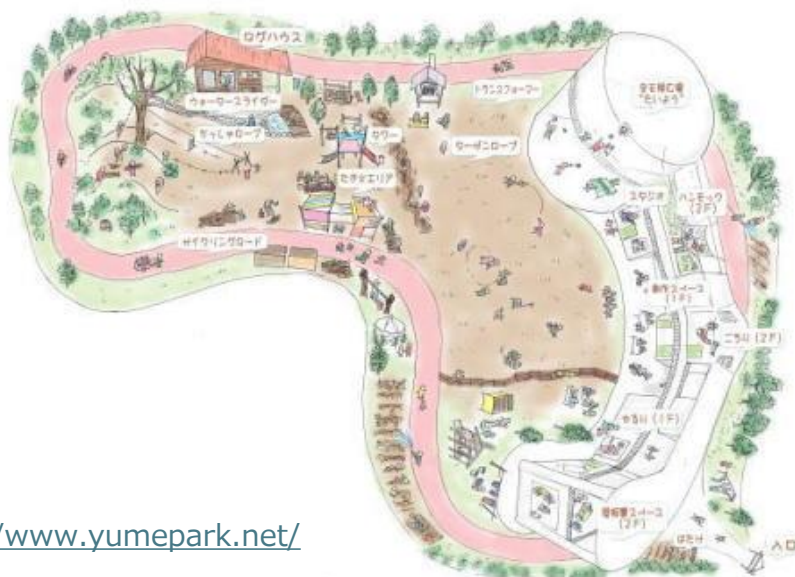
西野 博之氏
フリースペースたまりば理事長
川崎市子ども夢パーク前所長

国連に子ども権利条例というものがある

コルチャック氏の言葉

「子どもはだんだんと人間になるのではなく、すでに人間である」

- ・日本には未熟な者に対する「半人前思想」があり子どもの権利を考えない風潮がある
- ・川崎市では「子ども市民・おとな市民」という考え方で条例を作った。
- ・また、子どもの居場所が大切であるという事から子どもがどろんこになったりして自由に遊べる「子ども夢パーク」を子どもと一緒に作った
- ・ゆめパークは多くの人が集まる人気の場所となり、「ゆめパのじかん」という映画にもなり、NHKの72hoursというドキュメンタリー番組で年間投票1位にもなった



画像出展：川崎市子ども夢パーク <https://www.yumepark.net/>

(※映画「ゆめパの時間」は¥500/1人、最低保証額¥30,000で上映できる)

基調講演「誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて」
～すべての子どもたちに「生まれてきてくれてありがとう」を届けよう！～

西野 博之氏
フリースペースたまりば理事長
川崎市こども夢パーク前所長

- ・生きづらさを感じる子どもたち、不登校は30万人を超えた
- ・いじめが原因のケースも多いが、**不登校の原因を先生に聞くといじめではなく「無気力」だと答える**
- ・いじめが多くなる学年は小学校中学校を通した9年間の中の何年生でしょう？
→A) **1位は小学校2年生、2位は小3、3位は小1**
- ・いじめられても逃げてはいけないと思うから自死を選ぶ

◇2023年度のいじめの件数

681,984件
小学校 551,943
中学校 111,404
他 18,637

◇2023年度の出生数 727,277人
→毎年およそ4万人減っている

10～39歳の一番の死因は自死
→**大丈夫の種をまく必要がある**

問題は「**自己肯定感の低さ**」

大人の不安が子どもの自信を奪う

- ・このままじゃダメなんじゃないか
- ・将来困るんじゃないか
- ・できないよりできた方がいいんじゃないか

子どもの評価が大人の評価になっている

→子どもがちゃんとしていれば「ちゃんと子育てできた親」と思われる

- ・最近の親は「逆上がり家庭教師」を付ける。
逆上がりができないと授業についていけない、馬鹿にされる→結果、不登校になる
そうならないために家庭教師をつけるという考え方
- ・**「ちゃんと」「ふつう」「これくらいできるでしょ」**
- ・子どもの幸福度 測定した38か国中 37位だった
日本は「やりたい」より「やらねば」が優先される
- ・子どもにとって遊びは「**主食**」です

基調講演「誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて」
～すべての子どもたちに「生まれてきてくれてありがとう」を届けよう！～

西野 博之氏
フリースペースたまりば理事長
川崎市こども夢パーク前所長

生きていくうえで勉強よりも大切なもの

「非認知能力」

- ・人間として生きていく力
- ・目標
- ・人と関わる
- ・感情のコントロール
- ・困難から立ち上がる力

■ 夢パーク

「ケガと弁当、自分持ち」

ケガしても自分の責任、その代わり思いっきり遊べる

- ・生きづらさを感じるのは0-100タイプの人が多い
できないことを受け入れることが大事
- ・不登校支援は親支援
- ・不登校になって社会に出ていけない「不安」

■ フリースペース「えん」

- ・学校復帰にこだわらず長いスパンで見ても将来的に社会復帰を目指す
- ・大人の「良かれ」は子どもの「迷惑」
- ・えんでは「なにもしないこと」の保障をしている
- ・学校に行っていない子は指導や「支援臭」から逃げる
- ・150年前に富国強兵を掲げてできた「学校」が今の学校の原点
- ・社会が変わってきているのだから教育システムも変わるべき
- ・学校教育の制度疲労がもう来ている

「学びたいことを、学びたいように学ばせてよ」

- ・得意な分野に光を当てる
- ・ひとりひとりのニーズに合わせた多様な学びを育ちを保障する

基調講演「誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて」
～すべての子どもたちに「生まれてきてくれてありがとう」を届けよう！～

西野 博之氏
フリースペースたまりば理事長
川崎市こども夢パーク前所長

不登校などの問題を抱えた子は「困った子」ではなく「困っている子」
※不応児ではない

子どもの「パッション」を大事にする

NHK朝ドラ「らんまん」の万太郎のセリフ
「好きっちゅうオがあるがじゃ」

好きな事を見つけることが本当に大事。
問題のある子でも「大丈夫」に包まれると欲が出て勝手に歩き出す

色々親は心配するが

「クウ・ネル・ダス」（食う・寝る・出す）だけ心配すればいい

あれができないとだめ、これができないとだめというのは
いのちに対して失礼

生まれてきただけでありがとう

大人が変われば子供も変わる！ウェルビーイングの社会実験
～学び保障の政策を社会に根付かせることの大切さ～

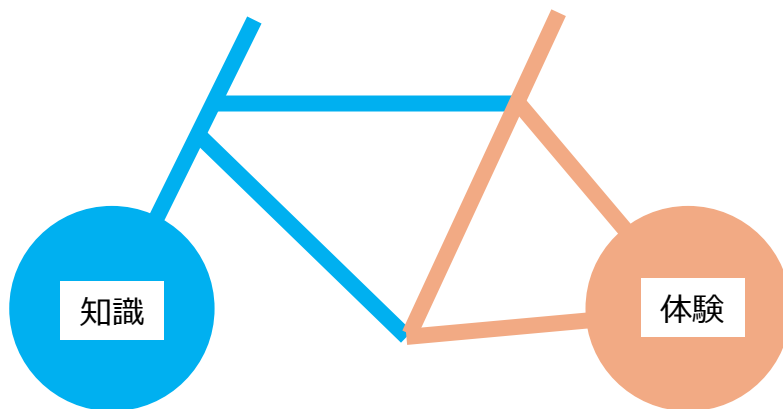
土屋美樹氏 文部科学省
吉田田タカシ氏 トーキョーコーヒー代表

・文科省「COCOLOプラン」

- ・不登校といっても学校自体に来れない子もいれば
空き教室なら行けるとい子もいる
- ・学びの保障
- ・学びの多様化学校
- ・家から出ることが難しいこの場合は
オンラインやアウトリーチなどその子に合わせた方法が選択できる

■ 吉田田タカシ氏

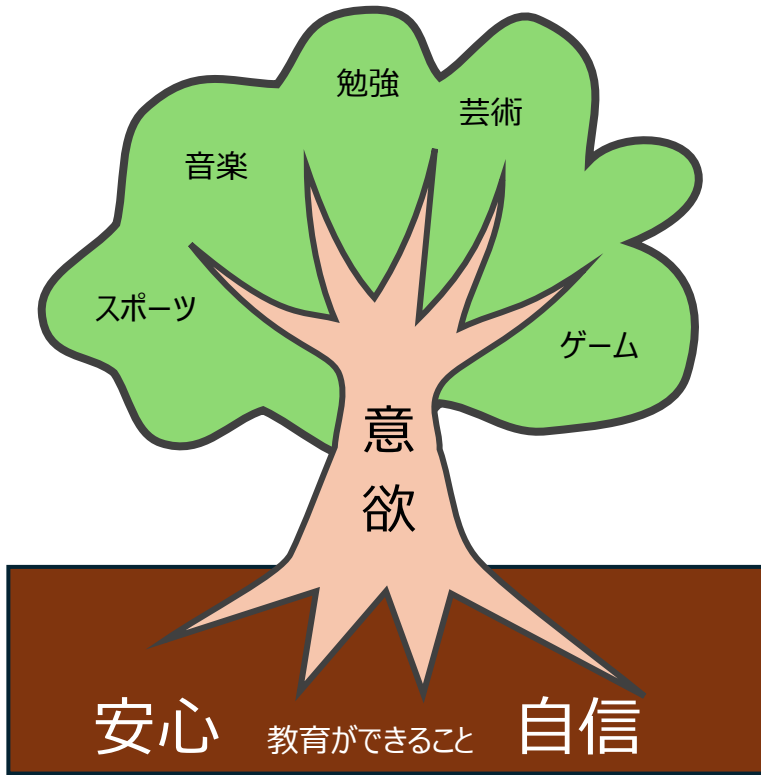
- ・小さいころから短期記憶が不得意
さっきも「お久しぶりです。」と言われて話したが誰なのか分かっていない
- ・学校でぶつかる事が増え、何かを壊したい衝動に駆られて
ロックを始めてロックバンドDOBERMANを結成、25年継続している
- ・アトリエ e.f.t ロックバンドと同じ年数続けている。
アトリエといっても油絵をあるとかそういう感じではなく、
「作る」と通して「生きる」を学ぶ というコンセプト
人生を消費者ではなく作り手となること
- ・アトリエでの活動例（小学生）
的を用意して、直接当てるのではない形で的に当てる
パチンコのような形や投てきのような形、トランポリンを作るグループもいたり様々な工夫で作る
途中で不利なのが分かってそのまま最後まで突っ走るところが良い
- ・「正解信仰」を捨てる



例えばここにいる全員がカレーライスを知らないとして、僕が食べて「辛いけどうまい」と言って、みんながそれを聞いて情報として知ることができる。でもみなさんは「辛いけどうまい」という情報しかないけれど実際に体験した僕の情報量とは全然違う。体験を伴う知識はもっともっと深い。

大人が変われば子供も変わる！ ウェルビーイングの社会実験
～学び保障の政策を社会に根付かせることの大切さ～

土屋美樹氏 文部科学省
吉田田カシ氏 トーキョーコーヒー代表



安心できる場があって
自信を付けたら意欲が育ってきて
意欲が育てばあとは子どもが好きなように
好きなことをやり始める

- ・不登校 = 大人の不理解
- ・トーキョーコーヒー = 登校拒否のアナグラム
登校拒否をきっかけに集まった大人たちが意識を変えていくムーブメント
- ・子どもが登校拒否になると親は自分を責めるか学校を責める
でもそうじゃないよね、と違和感を感じる30万人が集まり考える場
教育とは = ジャマをしないこと
- ・子育てにおいて親は子どもに自分ができなかったことをやらせようとしたり、
自分ができたから同じようにして欲しいと思ったりする
- ・でも血はつながっていても人生はつながっていない
子どもをコントロールしない
子どもに裁量と決定権を与える

「子どもを均質化する教育に未来はない」

以上